

絶滅の X デーは遠くない

トクワカソウ (石川県白山市)

トクワカソウはイワウチワの変種で、花は同じだが、葉の形が異なる。イワウチワは心形になり、トクワカソウは円形。新潟の分布の境では、特定できない微妙な葉があるという。

筆者の周辺では、ブナが生えるような、標高 500m 付近の登山道沿いや、崖の縁等によく見られる野の花。しかし、なかなか群生する場所はない。この年の春、ある登山道沿いを歩いていると、ブナの根元にトクワカソウを数輪見つけた。低い花なので、座って撮影していると、藪の彼方に沢山花が見える。斜面を下ってみると、何と一面のトクワカソウの群生地であった。

最初は花が終わりかけ、翌年も狙って行ったが同じ。その翌年、三度目の正直というが、この年も遅かった。トクワカソウの花の盛りは実に早く咲き揃っている年に巡り会うのは至難。

2020 年、この年は異常な暖冬であった。全く積雪がなかった。山も同じで、標高千 m 程には、たまに白くなる程度で、すぐ融けていた。里山では例年より 2 週間程開花が早まった。ところが 3 月に入って寒気が入り込む日が続き、開花が 1 週間程早い程度になってきた。こうなると、山地にあるトクワカソウの開花時期が全く解らなくなった。そのため 3 月半ば頃からロケハンを二回もして、ようやく咲き揃ったトクワカソウに出逢えたのである。

トクワカソウはブナの樹林下に生育する植物。ブナと運命共同体である。温暖化によって、全国のブナの巨木が次々と倒木している現場に立ち会った。ブナが消えればトクワカソウも消える。撮影地は比較的標高の低い場所。運命の X デーは、そんなに遠い話ではないだろう。



ブナ林の下に群生するトクワカソウ